

図書館がつなぐ犬の縁、猫の縁
図書館が動物保護活動に介入することについての考察

福島沙希
札幌市図書・情報館

1. はじめに

第23回ビジネス・ライブラリアン講習会に参加し、事業案作成のワークショップに臨むにあたり、札幌市の課題について考えることとなった。テレビのニュースで、新しくできた動物愛護管理センターが収容限界を超えてしまった⁽¹⁾ことを知ってすぐの頃だった。このとき、以前、札幌市図書・情報館で開催したセミナーに保護猫活動をしている方をお呼びした際の「ボランティアではダメ。ビジネスとして活動しなければこの先続けていくことは難しい。」という言葉思い出した。動物保護の活動は、行政・民間問わず常に余裕のない状況を強いられている。

動物保護活動は札幌市のメインの課題ではないが、おそらくこれから先長く燻り続ける課題であると考え、今回の事業案作成の起点とした。

2. 札幌市図書・情報館の概要

札幌市図書・情報館は2018年に開館した「はたらくをらくにする」がコンセプトの課題解決型図書館である。「WORK」「LIFE」「ART」、北海道と札幌の魅力発信をテーマに資料を収集し、NDCを用いながらも独自のテーマでの配架を行っている。また、いつ来ても必要な資料が読めるようにという考えから貸出は行っていない。

外部連携事業として年20回程度さまざまなテーマのセミナーを開催しており、定期的に「北海道よろず支援拠点」「札幌青年司法書士会」等4団体と連携し、無料出張相談窓口も設置している。

2023年10月に開館5周年を迎えたことを機に、館内のリニューアルを行った。298台ある書架のうち123台の構成や、配架の際に重要な大中小のオリジナルテーマを見直し、加えて一部のエリアでオンライン会議も可能にするなど、より時代に即した環境を整えた。

3. 事業の背景と課題

3-1 札幌市の動物愛護管理 沿革

札幌市は、平成27年(2015)5月に「札幌市動物愛護管理基本構想」⁽²⁾(以下、基本構想)を策定した。基本構想の実現のため「札幌市動物の愛護及び管理に関する条例」⁽³⁾(以下、条例)を平成28年(2016)3月30日に公布、平成28年(2016)10月1日施行した。そして、平成30年(2018)4月には「札幌市動物愛護管理推進計画」⁽⁴⁾(以下、推進計画)を策定した。

3-2 「札幌市動物愛護管理推進計画」について

推進計画は、基本構想で掲げられた「人と動物が幸せに暮らせるまち・さっぽろ」と目標を同じくする計画であり「札幌市まちづくり戦略ビジョン」に沿った個別計画として位置づけられ、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」では基本目標のための取り組みの中に盛り込まれている。計画期間は2018年度から2027年度までの10年間で、現在この計画に沿ってさまざまな動物愛護に関する取り組みが実施されている。昨年11月にオープンした動物愛護管理センター(愛称: あいまる さっぽろ)も推進計画事業の1つだ。元は市内2ヵ所にあった動物管理センターを集約し、動物愛護に関する普及啓発の拠点としての機能を強化した施設となった。殺処分機能は無い。収容可能頭数も以前より増加したが、想定以上に飼育放棄の相談件数が増えたこと、多頭飼育崩壊案件への対応によって収容頭数の過密状態が起こった。

3-3 推進計画と進捗状況から見える課題

推進計画の中では、飼い主以外も含めた市民全体の動物に対する知識の向上(動物の愛護)、飼い主の終生飼育の意識向上(動物の管理)、業者や獣医師会や教育機関等との連携、保護ボランティアの負担軽減や活動支援(体制整備)などの他、多くの課題が挙げられている。

推進計画の進捗状況⁽⁵⁾を確認すると、2022年度の「動物愛護の精神が広まっていると思う人の割合」が、最終目標値50%に対して19%。「犬による咬傷事故件数」が、25件に対して67件。「犬に関する相談(不衛生)」が、30件に対して43件と目標値を上回っている。また「猫の引取り数」「犬に関する相談(放し飼い)」「猫に関する苦情相談(不衛生、庭・畑荒らし)」については目標値を下回ってはいるが、大幅減したとはいえない数値だ。現在計画の折り返しに突入しているが、依然として当初挙げられていた課題が残っている。

3-4 動物保護団体の活動から見える課題

現在札幌市で活動している動物保護団体は、市に登録されているもので6団体⁽⁶⁾あり、それぞれのホームページから活動内容等が確認できる。

各団体のホームページからは飼い主の適正飼育が徹底されていないこと、多くを寄付に頼らざるを得ない慢性的な資金不足や人手不足等の課題が読み取れる。

適正飼育の認知が低いことにより保護が必要な動物が生まれ、保護をするためには人手が要り、保護した後は食糧費や医療費など継続的な資金が必要という1つの構図が浮かび上がってくる。

3-5 札幌市の動物愛護を取り巻く課題 まとめ

基本構想や推進計画、動物保護団体の活動から見てきた主な課題を以下にまとめる。

- ・動物愛護の精神の育成
- ・動物の適正飼育の徹底（終生飼育、去勢避妊、狂犬病予防接種、屋内飼育等）
- ・市とボランティア・保護活動団体との連携
- ・団体の活動資金の調達
- ・人手不足

上記5つの課題について、図書館からもできる支援を考える。

4. 事業案

4-1 事業の概要

① 「どうぶつの本の世界」の連携強化

例年、動物愛護週間に合わせて札幌市中央図書館をはじめとする複数の地区図書館が札幌市動物管理センターとの連携で行っている展示「どうぶつの本の世界」展示を行っている館同士の紹介や図書・情報館のイベントへの案内などを行い、それぞれの図書館としてではなく、札幌市の図書館として動物愛護について取り組む。

② 図書・情報館での適正飼育に関するセミナー

図書・情報館で行っているセミナーのうち「法テラス劇場」という法テラスと劇団イナダ組との連携で行っている、演劇で主旨の理解を深めるセミナーの形を応用し、動物を飼う際に重要な適正飼育の知識を伝えるセミナーを開催する。

③ ビジネスプランコンテスト

3-5 で示した課題のうち、特に保護団体の課題である資金不足・人手不足に対する事業。

市民から保護団体の困りごとを解消するビジネスプランを募集し、実現できるようサポートする。

4-2 具体的内容

① 「どうぶつの本の世界」の連携強化

②、③の事業案を実施するには、事前の動物愛護に対する機運づくりが重要であると考えられる。②、③の事業だけを実施すると気づかれにくく唐突感もあり、期待する人数よりも参加者が少ないことが懸念される。

そこで、毎年動物愛護週間（9月20日～26日）に合わせて市内数か所の図書館が動物管理センターとの連携で行っている展示「どうぶつの本の世界」を利用し、市民の関心を高めるよう働きかける。

従来の「どうぶつの本の世界」は、それぞれの図書館で動物の飼い方やいのちの大切さを伝える本を写真集や小説を交えて展示していた。このような展示は資料収集の特性上、図書・情報館よりも中央図書館や各地区図書館の方が向いている。まず、この展示を別々の図書館で行うのではなく「札幌市の図書館」として行うものにしたい。

他の図書館でも展示・イベントを行っていること、選書の工夫がわかる配布物や掲示物を作成し「ほかの図書館でも展示をしてるんだ」と市民に気づいてもらう。加えて、展示を見た人の感想を募集し展示の中に盛り込むことで次に展示を見に来た人がほかの人の考えにも触れられるよう工夫する。さらに、複数の図書館を巡って展示を見てくれる人は少数だと予想されるため、SNSを利用して共通ハッシュタグ「#どうぶつ本の世界(仮称)」での投稿も呼びかけ、より市の図書館全体の展示としての雰囲気高める。利用者からの投稿だけではなく、図書館のアカウントでは展示に盛り込まれている感想の写真を適宜投稿していく。

また、図書・情報館のセミナーも他の図書館の展示・イベントの1つとして掲載し、図書・情報館を利用していないが動物については興味がある人に図書・情報館のセミナーを知ってもらうきっかけとする。

② 図書・情報館での適正飼育に関する演劇セミナー

3-5の課題のうち動物の適正飼育への意識向上は行政にとっても、保護活動団体にとっても重要度の高い課題である。

そのため、現在はコロナ禍の影響で開催数が減っているものの、これまでも動物愛護管理センターや保護団体による適正飼育に関する講座は開催されていた。

しかし、思うように適正飼育の知識は浸透しておらず、また、講座を開催してもほとんどが動物をすでに飼っている人の参加であるため、飼う前の人や飼うつもりのない人には知識を伝える機会がないという課題があった。

この課題について、2022年度に行われた札幌市のインターネットアンケートの調査⁽⁷⁾によると「ペットに関する講習会等は、どのような場所で行われれば参加しやすいと思いますか」に対して43.1%の人が「区役所・区民センター」と答えている。この結果は「保健所・動物管理センター」が参加しやすいと答えた人の約2倍である。強い関心が無ければ遠く普段は行かない管理センターまでわざわざ赴く人は少なく、動物愛護の活動をしている施設よりも身近な施設で参加したい人が多いと考えられる。

このアンケートの選択肢の中にはなかったが、身近な施設という条件であれば図書館も当てはまる。また、特に図書・情報館で行うセミナーの会場はオープンなので通りがかりの人の目にも付きやすく「ちょっと気になる」程度の動機でも比較的参加しやすい条件がそろっている。

以上を踏まえて、適正飼育の知識が思うように浸透していない課題については従来とは違う形式でのアプローチも必要だと考えた。

そこで図書・情報館でのセミナー事業としては、過去に開催して「わかりやすかった」「身近に感じやすい」という感想が多い演劇セミナーの形を採用する。豊田講師のアボドカシーについての講義の中で、報告は覚えていなくてもストーリーは記憶に残り、周りの人に自発的に話すようになるのお話があった。説明的な講座ではなく、演劇（ストーリー）の中で適正飼育がなぜ必要なかを伝えることで記憶に強く残りやすくし、セミナーに参加した人から周りの人にも適正飼育の重要性を伝えていくことが可能になる。

一方で、心に訴えかけるストーリーにばかり重きを置いて「適正飼育とは何か」という本質が埋もれてしまっただけでは意味がない。従って、札幌市小動物獣医師会や北海道大学獣医学部とも連携してシナリオの監修や演劇内でのポイント解説を依頼する。あくまでも「適正飼育」を学ぶための演劇セミナーとしての開催に注力する。

③ 「はたらくをらくにしたい 図書・情報館ビジネスプランコンテスト」

動物保護を助きたい編（仮称）の開催

動物保護活動を行っている団体（以下、団体）の資金調達は、基本的には寄付（フードやトイレ用品等の物品含む）で賄われている。しかしながら、十分な量が確保できてはいない。猫カフェでの収入やグッズ販売の収入を充てている場合も多いが、それでもぎりぎりの運営になっており、保護活動自体をビジネスの形で回していかなければ将来的に先細りになると危惧されている。

また、常に人手不足で忙しく本業を別に持ちながら活動している人も多いため、先細りを危惧しながらもビジネスのことにまで手を回すのが困難でもある。

そこで【資金調達部門】【人手不足解消部門】の二つの部門のビジネスプランを募集するビジネスプランコンテストを開催する。

【資金調達部門】は保護活動をビジネスのサイクルに組み込んだ将来的にも循環可能なプランを、【人手不足解消部門】ではマンパワーで回している活動内容をもっと楽にできるプランを募集する。

優勝したプランには、プラン実現のための支援金 10 万円を贈呈し、プランにとどまらず実際に運営していくことを条件とする。

コンテストに関連して利用者が保護猫に対して推し活をすることで団体が収益を得ることのできる保護猫の推し活サービス「neco-note」を提供している株式会社 neconote⁽⁸⁾ や、企業とのコラボで売り上げの一部が保護猫活動の運営に充てられる「ハッピーネコサイクル」を実施している株式会社ネコリパブリック⁽⁹⁾ 等、すでに動物保護活動にビジネスの手法を取り入れている事例の紹介展示も併

せて行う。

コンテスト開催にあたっては、図書・情報館にはノウハウが少ないので日本政策金融公庫、札幌産業振興財団等と連携して行う。

コンテスト参加者向けに図書・情報館でのビジネスプラン作成講座も行い、参加者へのサポートを行う。

コンテストを行い有効なビジネスプランを獲得することで、団体の資金不足や人手不足を解消することを第一の目的とする。さらに、アイデアはあるが役立てる機会のない人や技術はあるのにビジネスになかなかつながらない中小企業のビジネス機会の創出も目指す。

また、図書・情報館がビジネス支援の図書館であることを市民に印象付けることも可能と考える。

動物保護を助きたい編だけで終わるのではなく「〇〇編」として継続していけると尚良い。

5. おわりに

第23回ビジネス・ライブラリアン講習会に参加しワークショップを含む講義の中で感じたのは、どんなにビジネス支援の事業を行っていたとしても気づいてもらえなければ意味がないということだ。図書・情報館は昨年開館5周年を迎えた。鳥取県立図書館や広島県立図書館の事例、豊田講師、島津講師の講義を拝聴し、いったいどれだけの市民が「あそこはお仕事のための図書館だ」と認識してくれているのだろうかと考えさせられた。セミナーなどを図書館から発信していくことはもちろん重要だが、利用者からの「こんなことに役に立った」の声を受信し、再びそれを図書館が発信して人の目につくようにしなければ、成果は埋もれるばかりで人々のビジネス支援サービスへの認識は広がらないと感じた。今後は図書・情報館で行っているビジネス支援の内容を手軽に知ることができて、身近に感じられるような事業を考えていきたい。

もう1つ、今回のレポートの始まりには、以前セミナーに登壇していただいた方の言葉があった。当たり前だが、これまでセミナーの講師として呼び出した方たちも、それぞれの仕事をしているビジネスマンたちだ。「はたらくをらくにする」図書・情報館のためにはたらいて下さった方たちを、らくにできるようなサービスができれば、これから先ビジネスの世界で頼られる図書館として縁をつないで行けるのではないかと思う。

最後に、貴重な講習会に参加する機会をいただけたこと、多くのことを学ばせていただいた講師の皆様と受講生の皆様、励まし支えてくださった図書・情報館の皆様に感謝を申し上げます。

<引用・参考 URL>

最終アクセス：2024.5.26

(1)保護猫急増で収容数が限界超える

今月オープンの動物保護施設 SNS で「押し猫」発信 札幌市

<https://www.youtube.com/watch?v=j8SJorIgR1k>

(2)札幌市保健福祉局保健所動物管理センター『札幌市動物愛護管理基本構想』

<https://www.city.sapporo.jp/inuneko/main/documents/201505kihonkoso.pdf>

(3)札幌市動物の愛護及び管理に関する条例

<https://www.city.sapporo.jp/inuneko/main/documents/sapporoshidoubutsunoaigooyobikannrinikanssurujourei20200601.pdf>

(4)札幌市保健福祉局保健所動物管理センター『札幌市動物愛護管理推進計画』

<https://www.city.sapporo.jp/inuneko/main/keikaku.html>

(5)令和4年度 札幌市動物愛護管理推進協議会

札幌市動物愛護管理計画の推進状況について 資料①

<https://www.city.sapporo.jp/inuneko/main/documents/r4shiryoul.pdf>

(6)動物愛護管理の推進に関する市民団体登録制度 登録団体一覧

<https://www.city.sapporo.jp/inuneko/main/dantaitoroku.html>

(7)令和4年度インターネットアンケート調査結果

調査テーマ【人と動物が幸せに暮らせるまちについて】

https://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/net_question/documents/6hitotodoubutu.pdf

(8)株式会社 neconote

<https://neconote.co.jp/>

(9)株式会社ネコリパブリック

<https://www.neco-republic.jp/>

・札幌市動物愛護管理センター（あいまる さっぽろ）X 公式アカウント

https://twitter.com/sapporo_dobutsu

・特定非営利活動法人 HOKKAIDO しっぽの会

<https://shippo.or.jp/#gsc.tab=0>

・特定非営利活動法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道

<https://tsukineko.net/>

・非営利型一般社団法人ねこたまご

<https://www.nekotamago.org/>

・特定非営利活動法人ニャン友ねっとわーく北海道

<https://nyantomom.jp/>

- ・ 特定非営利活動法人ホッカイドウ・アニマル・ロー
<http://hokkaidou.me/halaw/information.html>
- ・ 一般社団法人北のワニ舎
<https://kitanowanisya02.wixsite.com/-site-5>
- ・ The New York Public Library NY StartUP! 2023 Business Plan Competition
<https://www.nypl.org/help/services/startup/workshops>